第４回城端線・氷見線ＬＲＴ化検討会 議事概要

１．日時
令和４年５月 27 日（金）10 時 30 分から 11 時 50 分まで

２．場所
ウイングウイング高岡　研修室 503

３．出席委員
田中座長、河村座長代理、篠田委員、齊藤(一)委員、齊藤(宗)委員、森下委員

４．議事（概要）
（１）LRT（電化）以外の交通モードの検討調査について
第３回検討会において、LRT（電化）以外の交通モードについても検討することで合意したことを受け、LRT（電化）以外の交通モードの検討調査の内容について議論し、以下のとおり実施することに決定した。
〈調査する交通モード〉
① LRT（蓄電池式：架線レス）
② 新型鉄道車両（電気式気動車等）
③ BRT（バス高速輸送システム）
④ その他
〈調査内容〉
・交通モードごとの特色を把握・分析するとともに概算整備費を積算
・概算整備費は高岡駅で直通化する場合としない場合に分けて積算
〈調査期間〉
・令和４年 12 月 28 日まで

（２）城端線・氷見線 LRT 化事業費調査の実施状況について
・現在、実施している城端線・氷見線 LRT 化事業費調査の主な項目ごとの実施状況について報告
・調査結果については秋頃を目途に取りまとめ
〈主な項目等〉
・電化に必要となる架線延長、変電所等の整備費算出作業を実施
・低床ホームへの改良に伴うスロープの設置等の整備費算出作業を実施
・運行頻度を高めた場合に必要となる行き違い施設の新設個所や信号機の増設等の整備費算出作業を実施
・城端線・氷見線の輸送人員を踏まえた、LRT 化に伴い必要となる低床式車両数及び車両の留置スペース等の整備費算出作業を実施

（３）沿線市からの報告

城端線・氷見線の利用・活性化に向けた、駅及び駅周辺における公共交通の利用環境の整備、公共交通ネットワークの整備・充実など沿線市の取組みについて各市から報告し、取組みの進捗を確認した。

５．主な意見等

・持続可能な交通体系の検討に当たり、現状の鉄道施設を利用しつつ、イニシャルコストやランニングコストの低減は鉄道運営の観点から欠くことのできない視点である。また、カーボンニュートラルの実現・環境負荷の低減は時代の要請でもあることから、架線レスの LRT や電気式気動車等について、JR からの情報提供や、今後コンサルタントによる詳細な調査が必要と考える。

・電気式気動車は新たに架線を張る必要がない分設備コストを抑えることができる点、メンテナンス面で今よりもランニングコストを抑えることができる点、また、全国的な運転手不足の中、気動車か電車のどちらか一方の免許を保有していれば運転が可能である点等の一定のメリットが考えられる。

・BRT は LRT に比較し、輸送力で劣る一方で、整備費は抑えることができるのではないか。また、線路にこだわる必要がなく、運行区間を自由に延伸できるため、朝夕のラッシュ時以外は専用道路から外れて駅から離れた公共施設や商業施設などに立ち寄るといった運行が可能と考えられる。

・LRT（電化）以外の交通モードの検討調査については、事業費と併せて、運転士免許の種類や車両の法定点検など、制度面からも調査を行う必要があると考える。

・鉄道運営における専門的知見もあるので、とりまとめにあたり、協力をしたい。

・観光型 MaaS や、北陸新幹線の敦賀延伸に合わせた観光誘客、北陸三県でのデスティネーションキャンペーンを控えており皆様と一緒に取り組んでいきたい。